

# にしあぎな

学校便り

## スポーツの秋から文化の秋へ

10月9日の町民体育祭が終了し、運動会シーズンも一段落しました。これからは、学習発表会など文化の方面で生徒たちの活躍が期待されます。

また保護者のみなさんも家庭教育学級を中心にして合唱等でがんばっています。気候的に一番落ち着く良い季節です。文化の秋を満喫しましょう。

## 中学校校内英語暗唱弁論大会

### 【英語暗唱の部】

1年生「ピクニックへ行こう」  
お店で飲み物を注文しピクニックに行く設定でエピソードな会話ができました。

2・3年生「An American Rakugo - Ka」  
日本とアメリカの言葉のニュアンスの違いをおもしろく表現した文章を暗唱しました。



### 最優秀賞

1年生 ペア  
松林 将吾・松林 れな

2～3年生 張本 美波

優秀賞 2年生 中山 茉美

【弁論の部】演題紹介「発表順」

芝田 陸 「闘牛が人々を熱くする」  
 芝田 あかり 「小さな侏生が気付かせてくれた」  
 中山 茉美 「二つの震災で学んだこと」  
 基山 雄汰 「初めての卓球大会」  
 嶺山 加有 「奄美を世界自然遺産に」  
 松林 れな 「あきらめない心」  
 平山 勝也 「僕の野球」  
 山田 智也 「命を頂くとということ」  
 芝田 進之助 「試練を乗り越えて」  
 木村 拓海 「人生の楽しみ方」  
 若山 久瑠美 「友だちがすぐ近くにいてくれる幸せ」  
 張本 美波 「きびと卓球」  
 松林 将吾 「アップルの命」  
 平山 諒 「やる気を出す」  
 張本 美也香 「張本家の大事件」

最優秀賞 3年生 木村 拓海  
 優秀賞 1年生 嶺山 加有



## 天城町小学生陸上記録会

10月13日(木)に町陸上競技場で実施された記録会に三京分校と合同で5・6年生全員が出場しました。100m走、幅跳び、高跳び、ハードル走、800m走、リレーなどの種目で全員がそれぞれの力を発揮し健闘しました。

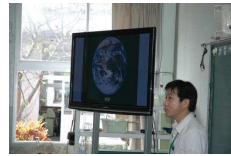
## 県立博物館移動講座出前授業「理科」

天文についての学習

小学生は、生涯学習センターにて直接見学会が実施されました。標本や記録展の優秀作品の展示、さらに液体窒素の実験などが紹介されました。

中学校は、博物館の方から講師の方が来校され、出前授業を実施してくださいました。理科の「天文」分野についての学習をパソコンソフトを使って天体のしくみなどをわかりやすく教えてくださいました。

教室の外では、太陽観察の特殊な望遠鏡で太陽黒点や太陽の周囲に出るプロミネンス(炎)を見ることができました。休み時間には、小学生も望遠鏡をのぞいて興味津々でした。宇宙の壮大さを感じた学習でした。



◎ 町理科研究記録展審査会研究記録の部  
入賞者紹介(追加) 入選 芝田 陸  
「温まりにくい飲み物は何か？」

## 読書感想文コンクール町審査会入賞者紹介

【入選】  
 小学1年 芝田 青利香 「とんとんとんのこもりうた」  
 小学4年 基山 雅美 「子どもの未来が消えたピカソ」  
 山田 真貴 「あこがれとチャレンジする心」  
 小学6年 芝田 隆正 「フェアブル」

【特選】  
 小学5年 芝田 大進 「いのちをいただく」  
 中学1年 松林 将吾 「ウェニーとウィルのための手紙」  
 中学2年 中山 茉美 「初音と美風」と「私と友達」  
 中学3年 平山 勝也 「人間らしく生きる」



# 11月 行事予定

10/31日～11/4日「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」  
 2日(水) 学習発表会、ふれあい給食  
 8日(火) 町英語暗唱弁論大会(天城中学校)  
 14日(月) 町PTA連絡協議会研修会講演会  
 17日(木) 徳之島地区中体連新人大会(卓球)  
 30日(水) 期末試験  
 県民週間フリー参観日(10/31～11/4)になっています。どうぞお気軽に子どもたちの学習の様子を参観されてください。

## 町PTA連絡協議会講演会紹介 上野正子さん(鹿屋市星塚敬愛園)

「人間回復の瞬間」の著者

著書紹介 Amazon 及び西日本新聞 本の紹介より引用

2001年5月11日、ハンセン病国賠訴訟は勝利した。第一次原告団に参加した13人の一人であった著者は、60年に及ぶ人間喪失の日々から解放され、この日を境に新しく生まれ変わった。もう、うつむかなくていいんだ。太陽の光をいっぱいに浴びていいんだ。本書は、真の人間回復を果たした著者が、見守ってくれた全ての人々に感謝を込めて綴った、魂の記録である。

### 著者について

1927年4月、沖縄県石垣市生まれ。1940年、沖縄県立第二高等女学校入学。同年12月18日、鹿児島県鹿屋市国立ハンセン病療養所「星塚敬愛園」入所。1946年、上野清さんと結婚。1996年4月、「らい予防法」廃止。1998年7月、ハンセン病国家賠償訴訟の第一次原告となる。2001年5月11日、勝訴。2007年8月10日、夫・清死去。現在、ハンセン病の語り部として学校などで講演を行っている。

本書にはその折々の出来事やわきでる思いが綴られる。裁判記録(陳述書や本人調書)も収められ、生々しい著者の声に胸を揺さぶられる。

あの日、敗訴であればもう生きてはいられないと、自室に書き置きして裁判所に向かったという。著者は人間回復を果たした今、ハンセン病の語り部として学校などで講演活動を行っている。

